

高齢者の聞こえのバリアフリー支援待ったなし

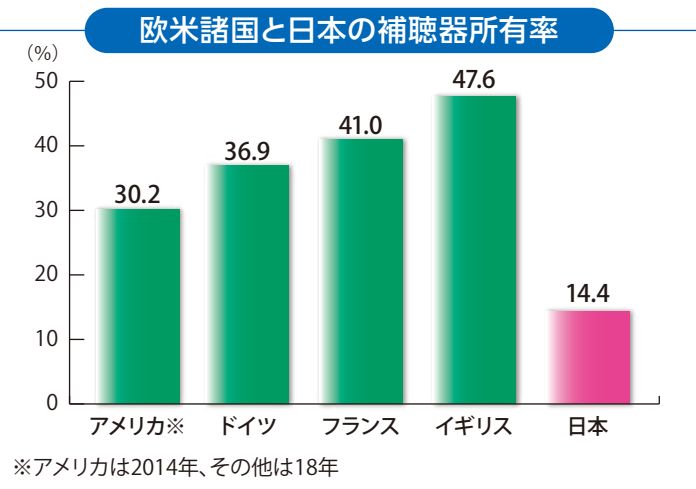
補聴器購入補助制度の実現を!

日本共産党「聞こえ」アンケート実施

「最近耳が聞こえにくいのが、補聴器は高いから迷っている」など聞こえの話題をよく耳にします。65歳以上の二人に一人が難聴になるといわれ、人と話すのがおっくうになるなど社会生活にもマイナスです。日本共産党町田市議団は、都議団作成の「聞こえのアンケート」に取り組み、ご意見を伺いました。多かったのが「補聴器が高いので補助を」という声、「補聴器の使い勝手が良くないのであまり使用していない」という声でした。

専門医・市民病院を訪問

そこで市内の耳鼻科専門クリニックと市民病院を訪問しました。「補聴器は10万円くらいから、各人に合わせて専門技能士がていねいに調整す



町田駅で「難聴と補聴器アンケート」を集めました
(左から殿村健一市議、田中美穂市議、佐々木とも子市議、池川友一都議、細野りゅう子市議)

ることが大切。補聴器は医療費控除の対象にもなり、耳鼻科医師の証明が必要」と耳寄り情報も。まずは耳鼻科専門医を受診し、相談しましょう。市民病院には聴覚・補聴器外来があり検査機器もそろっています。個人クリニックで困難な検査を行えるとのこと。また、難聴は認知症のリスクになることが学会でも注目されていることを伺いました。

加齢による難聴に支援を

現在、町田市では、障がい者を対象とした補聴器助成(70デシベル以上)しかありません。細野りゅう子市議は、「40デシベル以上の加齢による難聴を対象とした制度を作るべき」と質問。いきいき生活部長は、「(高齢者対象の補聴器購入補助は)23区で8区が実施している。多摩地域ではまだないが、各市の動向を注視する」と答弁しました。聞こえの検診や補聴器購入補助実現にがんばります。

町田市議会2019年第2回定例会が6月6日から28日まで行われました。日本共産党は、高齢者の聞こえのバリアフリー、猛暑熱中症対策、小中学校適正規模適正配置、市立図書館廃止問題など、市民の切実な声をもとに一般質問を行いました。一般会計補正予算については左記の理由で反対しました。

日本共産党市議団 補正予算に反対

保育園の給食費が実費徴収に

10月実施予定の幼児教育・保育の「無償化」。保護者の負担軽減は重要

ですが、財源が低所得者ほど負担が重い消費税増税ということに問題があります。これに加えて、市議会の一般会計補正予算の審査の中で問題点が明らかになり、共産党市議団として反対討論を行いました。

1点目は、保育園の給食費が、主として各園ごとの実費徴収となり、園によって給食費の設定がバラバラになることです。給食は保育の一环として、これまで保育料に組み込まれていました。都内23区の多くの自

幼稚園の保護者補助金を廃止

治体が、これまでと同様に給食費を徴収しないように予算をつけています。また、26市でも主食費は徴収しないという自治体が多数です。

2点目は、子どもが幼稚園に通う場合に町田市から毎月3000円であった保護者補助金が廃止になることです。幼稚園園長会からは、年度途中の削減ということに混乱が生じている、2万5700円まで保育料は無料になるが、それ以外の保護者負担軽減に保護者補助金の役割は無償化後も必要だという意見が出ています。

中学校給食 無料試食実施

中学校の中学校給食(あっせん弁当)を、中学生全員に原則7日分無料で提供する予算(約7000万円)が出されました。各学校5日間全員があっせん弁当を食べ、2日分その後に無料で注文することができるという内容です。3月議会に出された請願が採択されたことを受けて実施されるもので、試食後にアンケートをとって給食の改善、喫食率の向上を目指すということです。市民の中学校給食についての様々な運動に対して、市も対応を迫られている状況です。共産党は、小学校のような中学校全員給食の実施を早期に実現するように求めています。

